

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176502845		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・清河寺2		
所在地	埼玉県さいたま市西区清河寺1195-1		
自己評価作成日	令和3年8月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和3年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員会議や委員会を通じて認知症の理解と職員同士協力し合い、介護を行う事(チームケア)の大切さを学び、職員がやりがいを持って楽しく仕事が出来る環境づくりをはじめ、ご利用者が当ホームで過ごされるにあたり落ち着いた環境となるよう努めております。現在はコロナの影響により開催出来ていませんが、他事業所と交流の場を持ち、会議あるいは意見交換を行い、協力関係を築いています。時には介護用品の貸し借りなどご利用者様の支援へ結び付ける様にし、レクリエーションの際にはライバル関係など無く弊社以外の施設よりレクリエーションに招待をし、ボランティアを含め地域交流を行い協力関係を築いておりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大宮駅よりバスで17分、「清河寺」で下車し徒歩で7分の場所にあり、周りは住宅や畑などに囲まれた落ち着いた環境にある3ユニット、3階建てのグループホームである。リハビリを兼ねたレクリエーションなどで生活機能向上に取り組んでいる。職員は笑顔で入居者に接し会議や研修を通じて認知症の理解に努め、協力しあいチームケアを通して入居者が楽しく落ち着いた生活ができるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の自治体や地域資源を有効に利用する、安全で安心出来る介護サービスを目標とし、管理者・フロア長を中心に医療連携を行いチームケアとして取り組んでいる。	管理者は会議や委員会などの機会に理念の共有に向けた振り返りを行っている。職員はその理念を理解し、共有しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前には自治会への挨拶や周辺施設のイベントへ参加させて頂いたり、ボランティアの訪問など活動の場を広げていました。	自治会に入会しているが、コロナ禍のため現在は思うように地域との交流ができていない。近隣への散歩は続けており、出会った際には会釈をする程度の挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前には運営推進会議や家族会の場以外に、実態調査訪問や施設見学などご家族様が訪問された際に認知症介護に於いて学び得たお話をする機会を設けていました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではご利用様への支援にて通院対応の早さや利になかった事、他ご家族様からの相談事例、話の食い違いがあった事例など自由な意見交換を行いサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため開催できていないが、家族や運営に関わる方々に向け、毎月、電話等で近況報告を行い、現状についてお知らせしている。	長期化するコロナ禍ではあるが包括支援センター、民生委員、自治会長など、これまでの交流が途切れることのないよう、自発的に情報発信されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の高齢介護課へ生活保護の方の相談や情報共有を密に取り、入居や転居の相談などの協力関係を築いている。	管理者は定期的に市の担当者と連絡を取っており、必要な時には出向いて行き、良い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践するため、身体拘束廃止委員会を年4回、研修を年2回開催し、介護品質の確認と見直しを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を年4回、研修を年1回開催し、参加出来なかった職員に対しても議事録を通し必ず周知徹底している。また、虐待防止への理解度テストの開催や虐待防止テストを用いて理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政と連携し、ご家族様が高齢にて介護支援が難しいと相談を受けた際には、必要に応じて後見人制度をご紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を用いてのご説明と疑問点には本部と連携を図り、理解して頂ける様に努めている。また契約時以外にも疑問点には相談出来る様窓口を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様やご家族会から頂いた要望や相談事を、フロア会議や職員会議の場で検討対応している。また、運営推進会議を開催し、外部者に対しても表し運営に反映させている。	現在は緊急事態宣言下により家族の面会を禁止とさせて頂いているため、電話での近況報告の際に意見や要望などを伺っている。個々の支援に関する要望はあるが、運営に関する意見は無いのが現状である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から管理者へ相談をし易い環境・雰囲気づくりを心がけている。常に個別に相談や提案を受け対応している。	管理者は職員会議や実践の場で運営に関する意見を聞き、検討した上で取り入れるべきものは運営に反映させている。又、年2回、個人面談を行い個々の相談を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から聞いた、他職員の良かった所を尊重し努力を評価する様心がけ、長所は褒めるようにしている。また、必要物品から人間関係の相談まで仕事のし易い環境に出来る様日々整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の長所・短所を見極め、適材適所の配置や協力し合う考え方を会議や研修の場を通じて指導している。また個々の短所などの課題も指導している。社内外の研修を取り上げ参加を促したり、日常でも業務から助言しトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の施設長・ケアマネージャー・生活相談員と毎月会議の機会を設けネットワーク作りやサービスの質の向上を模索している。 ※新型コロナウイルスの影響により今は自粛している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様のご意向を聴き取り、アセスメントに基づいて穏やかに生活が送れるようコミュニケーションに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃より疑問点や相談事を受け付けており、情報の共有を図りながら一緒に支援について考え、相談しやすい環境づくりにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する際、ご家族様やご利用者様が求める支援のニーズを見極め、必要な支援を提供出来る様に努めている。シニアセラピーや訪問リハビリマッサージなど他サービスの利用も必要であれば提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何気ない会話や一緒に食事とレクリエーションを楽しみ、無理の無い範囲で家事手伝いをお願いしている。第2の家として生活を共にしている事と役割があることでご自身の居場所がある事を実感して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご本人様とお話出来る機会を大切に、職員からご家族様に日々の様子や悩みを一緒に話し合える機会を常に設けており、ご家族様と共に支援していく事を大切にしている。※現在は緊急時等を受け、電話での面会を行っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人と手紙のやり取りを行うご利用者や、ご家族と長年通っている理髪店に行ったり、親族の墓参りや外食をするなど、ご家族の協力のもとで馴染みの継続を途切れないように努めております。※新型コロナウイルスの影響により今は自粛している。	コロナ禍で馴染みの場所や人との関係継続が難しい状況ではあるが、兄弟や家族に電話を取り次いだり、手紙のやりとり等の支援を行い、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の談話からご利用者様同士の会話の橋渡しをさせて頂いたり、レクリエーションを通しての交流や手伝いを通しての協力関係を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のまま退居されたご家族様へ次の受け入れ先の施設について相談に乗ったり、退居後ご家族様の方から状況を報告して下さる事があり、互いに感謝し合える関係づくりや支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のご意向が汲み取りにくい場合は、ケアカンファレンスにてアセスメントを行い、日々の生活や生活歴、ご家族様のご意向を取り入れることで利用者本位に検討している。	本人の意向が汲み取りにくい場合には、家族からの情報などを参考に以前の趣味や得意なことを会話などに取り入れ対応し、本人から喜びの感情を引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの新聞を入居後も読んで頂いたり、家具や好きな食べ物をご家族様に持ってきて頂いたり、家で行っていた支援を職員が引き継ぐ等の支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議・フロア会議を通し、状態の情報共有を密に行い残された力を尊重し、無理無く穏やかに生活を送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族会だけに限らず面会時や電話相談などを常に受け、ご家族様と共に必要とされる介護を考え支援に移せるよう計画作成に努めている。	本人の意向を日々のやり取りや介護の中で捉え、家族の要望なども勘案し、フロア会議やカンファレンスを行い本人の現状に即した介護計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や日々の申し送りでケアの実践記録や気づき・工夫を個別毎に管理し、職員間で情報共有を行い、ご利用者自身にあった介護計画となるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護用品の相談から支援の仕方についての相談など必要な介護やニーズに答え、専門分野の方々とも協力関係を築きサービスの多機能化へ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	西区の地域資源の情報を公開し、ご家族様が身近にご利用出来るように面会時や家族会などで説明をさせて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より馴染みのあった医療機関へはご家族様協力のもと通院を行っており、訪問診療医や看護師・薬剤師と連携し必要な医療が受けられるよう援助している。	協力医療機関の往診が月2回、歯科の往診が月2回ある。入居前からのかかりつけ医への受診については、家族対応を基本としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携ノートへ介護士が気になった症状や情報を記入し、看護師が来られた際に直接相談したり、看護師からも連絡を記載して頂く事により情報を交換・共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も面会を行いご本人様の状態を看護師から伺ったり、ご家族様と地域連携室への情報共有や退院へ向けての相談を行っている。※現在はコロナ渦の為、電話にてその後の様子を確認させて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したご利用者様に必要な支援内容を考え、医師とご家族様へ相談し、相談後の内容は職員へも情報共有しチームとして支援出来る様、努めている。	入居時には「重度化した場合の対応に係る指針」について説明を行い、重度化対応の意向がある場合は協力医療機関の医師より十分な説明を行いチームでターミナルまでの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の状態や病状に合わせて対応できる様にフロア会議や職員会議にて処置の行い方をレクチャーしている。また緊急時には速やかに報告・連絡・相談を本部に行い連携を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防・避難訓練を実地し消防隊員のアドバイスの下で訓練を実施し経験を積み、非常災害計画書を作成し各地域へ連絡・連携できる様努めている。	年二回の防災訓練を実施しており、1回目は終了し、次回は夜間の訓練を行う予定である。職員は消火器の扱い方や避難誘導についての知識を身に付けている。自然災害に際し、食料や水などの備蓄品を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人一人の過去のライフワークを大切にし、仕事の経験談や趣味をホームでも続けられる様、化粧や新聞を楽しんだり、声掛けにて昔話を傾聴し尊重するように支援している。	一人ひとりのこれまでのライフワークを大切にし、人格を尊重した対応ができるように努めている。又、プライバシーに配慮した対応や言葉掛けにも気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替える洋服やおやつ、お茶など好みの物を選択して頂き、自己決定を大切に選べる能力の大切さを職員へ説明する様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人になれるスペースの確保や、居室にて休みたい、お茶を飲んで寛ぎたい際など自由に過ごせる環境づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には整容出来る時間を設けており、化粧品の使用を促したり、髭剃りなどの支援を行いおしゃれに過ごせる様支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクリエーションにておやつ作りを企画したり、ご利用者様の状態に合わせ食事形態を変えたりなど対応し、可能な工程をお手伝いという形でお話し、役割と食事・食後までの過程を大切にしている。	事業所で管理をしている菜園があり、収穫した野菜を食卓に上げたりしている。可能な方には配下膳やお箸配りなどを手伝って頂いている。好みの食事を取り入れて作り喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量の管理や嚥下状態の確認と情報共有を行い、水分量のチェックや排泄量の確認を記録し、ご利用者様の体調や食事量に合わせた量を提供できる様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士や歯科医師の居宅療養管理指導に基づき、口腔ケアの指導を受け適切なケアを行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔を把握し、定期的にトイレへご案内し失敗する確率を軽減したり、パットの適正な大きさを職員間で検討し、体操や運動などで下肢筋力の向上を図り寝たきりの予防や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを掴み、失敗を少なくするよう取り組んでいる。個々の状態に合ったパットを検討したり、下肢筋力の向上を図ったりして排泄の自立に向けた取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	直ぐに下剤に頼らず、牛乳やヨーグルトを召し上がって頂いたり、場合によっては腹部マッサージなどの対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴実施表を活用し、3日に1回のペースで入浴ができるよう支援している。拒否がある場合は、職員変更、順番や日にちの変更などで対応している。季節の柚子湯、菖蒲湯の他、入浴剤も使用し、楽しんで入浴ができるよう取り組んでいる。	3日に1回のペースで入浴できるよう、毎日入浴日を設け支援をしている。拒否のある方などは時間を変えたり、翌日に変更するなど、柔軟に対応している。入浴剤を工夫したり、季節の菖蒲湯やゆず湯などを行い楽しんで頂けるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	訪問診療医および医療連携看護師とご利用者様の体調や状態を相談し、助言を頂きながら安心して穏やかに休める様な環境づくりを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用の内容を理解し、薬が増えすぎないように医療連携看護師・薬剤師・訪問医師と相談連携の下、内服薬の減量に向けて支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔から読んでいた新聞の購読、化粧などを継続できるように環境の支援、昔から遊んでいた将棋や囲碁などのレクリエーションの提供、好物だったものをご家族様協力の下、ご用意または提供出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの周辺を散歩出来る様支援し、他施設へのレクリエーションの参加や公園での花見、ご家族の協力の下、外食や買い物を楽しみ充実した生活が送れるよう支援している。※新型コロナウイルスの影響により今は自粛している。	コロナ禍のため遠出や外食、買い物などができないため、天気の良い日はホーム周辺へ散歩に出掛け、運動を行い、気分転換をしている。又、敷地内の広い駐車場で花々や緑を眺め、外気浴をして頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望がありました場合には、商品の選択やお金を支払う機会が持てるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に協力の下、了承を得られたご家族様と電話やお手紙で交流を図れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	蛍光灯の光量の注意から、日中でも薄暗い所は電気を点け明るい雰囲気大切に、テレビの音量や生活音に留意し音楽を流したり穏やかな空気と、季節感を取り入れた掲示物や観葉植物を設置し環境づくりに努めている。	玄関や廊下は常に点灯し明るい雰囲気でご提供しており、温度、湿度を適切に管理をしている。リビングにはレクリエーションの写真や入居者の作品(ぬり絵など)が飾られ、季節感を取り入れている。観葉植物を配置し、環境整備に気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ケアカンファレンスにてご利用者様の情報共有を行い、座席位置からご利用者様同士の関係を考慮し、活気のある充実した生活が送れるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具などを持ち込んで、安心して過ごせるようにしている。また、回想法の観点から、昔の写真を多めに持ってきてもらい、職員と昔の話がしやすい環境を作っている。	落ち着いた生活していただけるよう、机やテレビ、布団、写真など馴染みの物を持ち込んで頂いている。若かりし頃の写真をたくさん持ってきてもらい職員と昔話ができる環境をつくっている。部屋の清潔保持は職員が毎日行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送れるよう「できない」として見るのではなくご利用者様に残っている力を理解し、継続していけるようケアカンファレンスを行っている。また職員を教育している。		

目標達成計画

作成日: 令和 3年 10月 6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	(3)長期化するコロナ渦ではあるが包括支援センター・民生委員・自治会長など、これまでの交流が途切れることのないよう、自発的に情報発信されることが望まれる。	コロナ対策の現状とGH清河寺2の様子を伝えながら、挨拶などの交流を通しコロナ渦が開けた際には会議やイベントにお誘いを出来るよう努める。	敬老会へ参加・集金やあいさつに来て下さった際に、コロナ渦によりイベントや運営推進会議の開催が中止となっている為、落ち着いた際にはイベントや会議への参加のお願いや助言を求める。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。